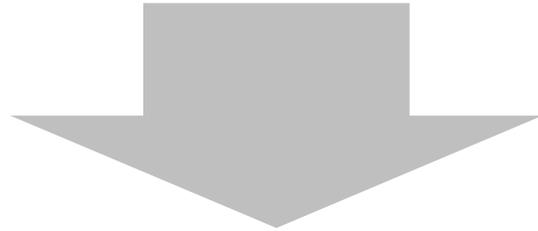


治水専門部会における課題について

平成24年8月31日(金)
大阪府都市整備部河川室

治水専門部会における課題



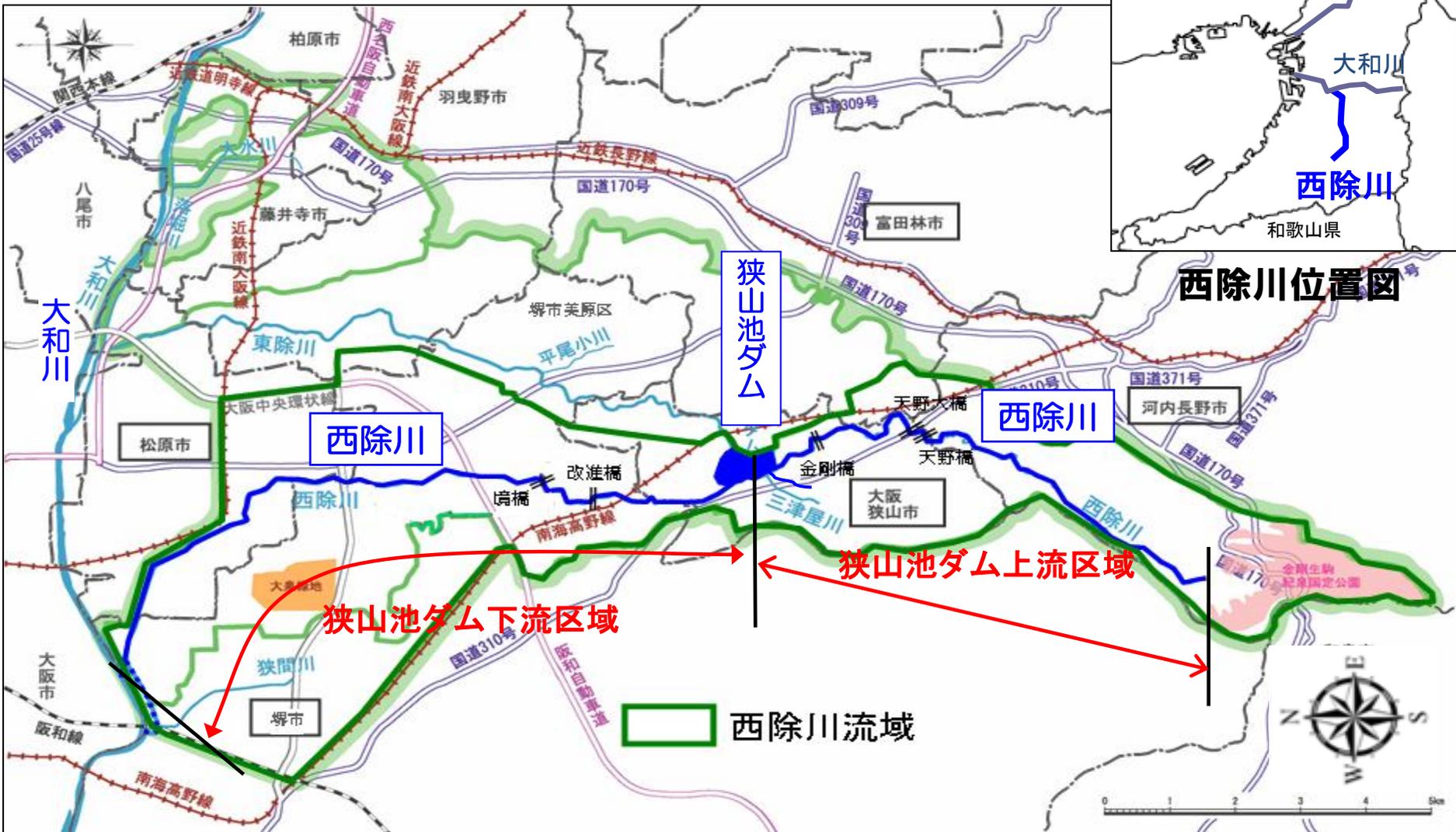
**人命を守ることを最優先とした基本方針のもと
田畑である中流域より、
人家がある上流域を優先して治水対策するか？**

1. 課題に係る西除川の状況について

○西除川流域の概要



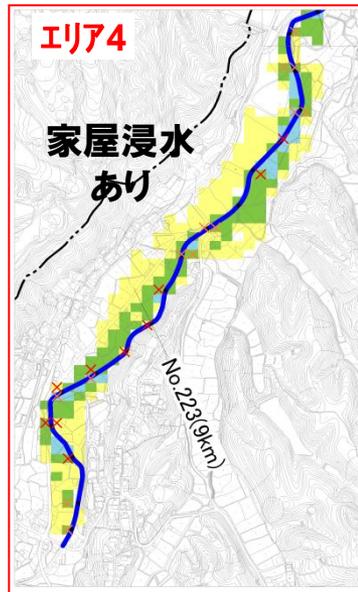
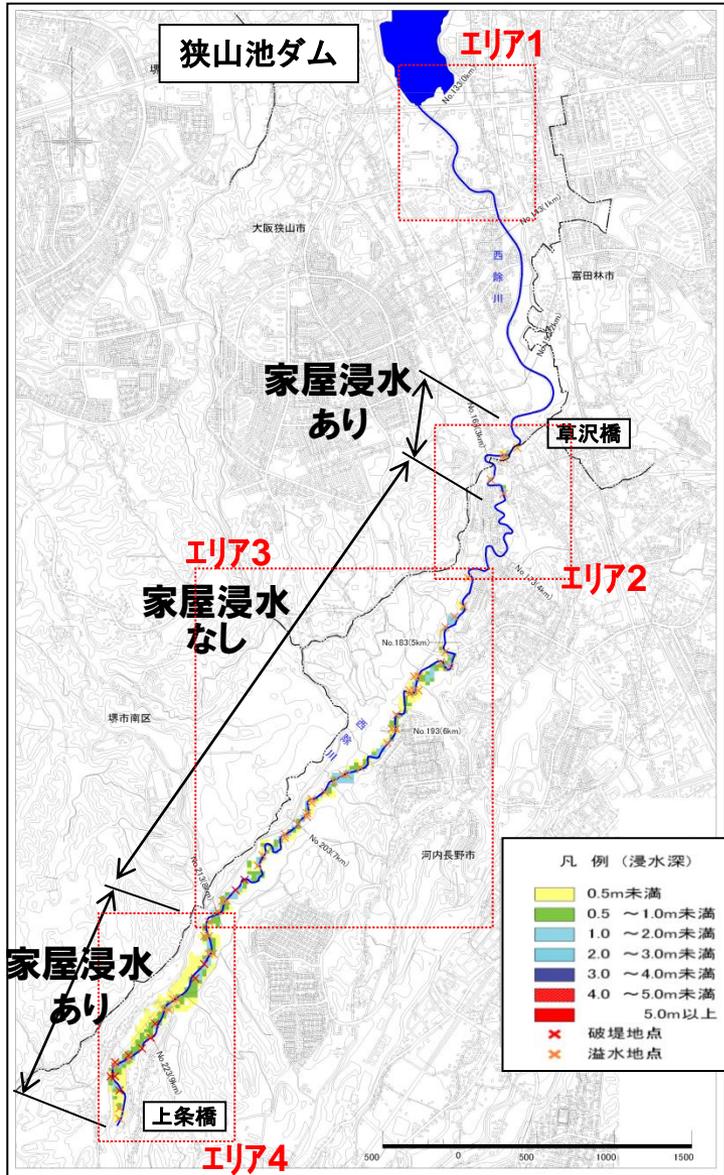
西除川位置図



西除川流域図

○西除川流域(狭山池ダム上流域)の氾濫解析結果(1)

■現況河道での氾濫解析結果 (狭山池ダム上流域)



時間雨量50ミリ程度(1/10年)

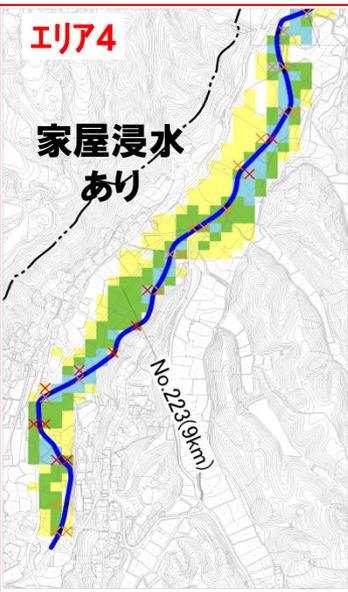
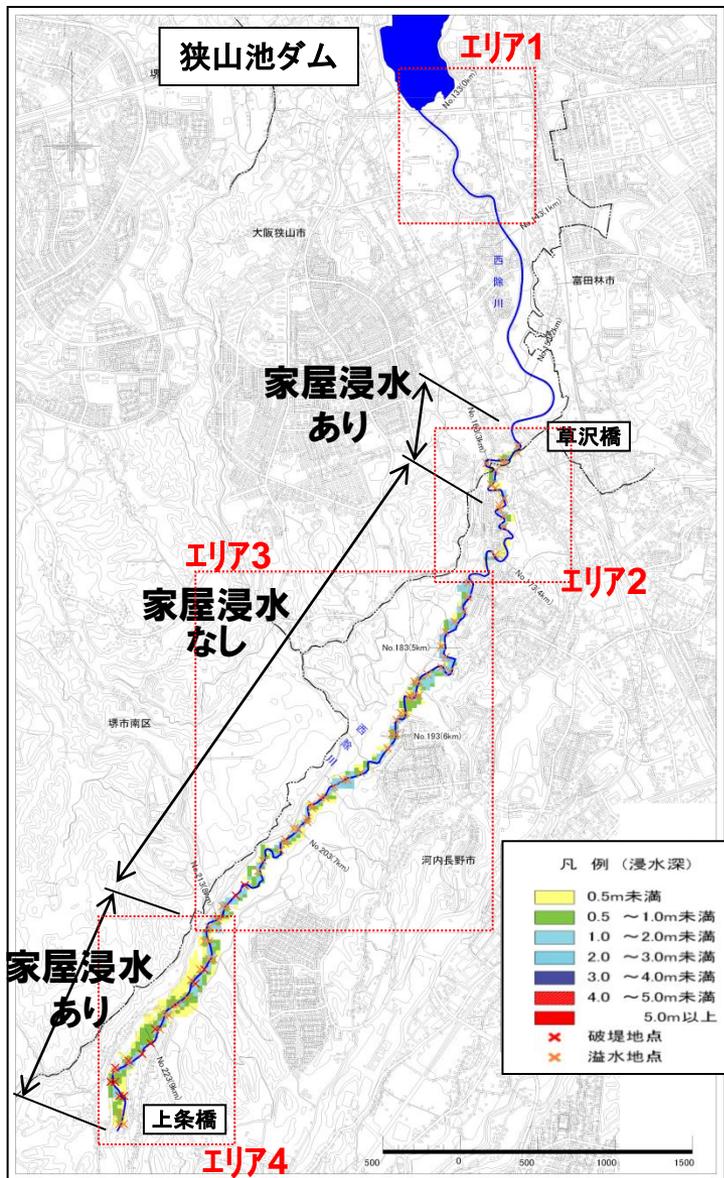


※被害最大となる破堤地点での破堤を想定(1洪水)

○西除川流域(狭山池ダム上流域)の氾濫解析結果(2)

■現況河道での氾濫解析結果

(狭山池ダム上流域)



時間雨量80ミリ程度(1/100年)



※被害最大となる破堤地点での破堤を想定(1洪水)

2. 中流が田畑で、上流に人家が位置する場合の治水整備の手順シナリオ想定案



3. シナリオ1と2の相違点

シナリオ1
下流からの河川改修の原則に立ち、田畑である中流、次に人家もある上流域の手順で治水対策。



シナリオ2
人命最優先の原則に立ち、人家のある上流域、次に田畑である中流域の手順で治水対策。

4. 留意すべき事項

シナリオ2とした場合における「**中流域への浸水リスク移転**」

5. 「今後の治水対策の進め方」(平成22年6月)の表現、及び今後の審議ポイント

「今後の治水対策の進め方」(平成22年6月)の表現

治水施設の整備については、**下流からの河川改修を原則としつつ**、流域の状況及び地先の危険度評価に応じて、人命を守ることを最優先とした**柔軟な整備(部分的改修)を実施**していく。なお、府域における50^ミ対策の整備率が89%(平成20年度末時点)となっているため、残る11%区間については、改修が必要な区間と手法を十分に精査した上で、50^ミ対策を治水施設により確保するものとする。



- 浸水リスク移転に対する評価。
- 柔軟な整備(部分的改修)の位置づけ。
- 土地利用規制や浸水時の補償制度等の具体化

■その他の課題

★田畑等で浸水するも、

人命への影響がない場合の当面の治水手法のあり方

(人命への影響がなくとも、少なくとも50mm対策は実施するのか?)